

## 第 1 回 庄内総合高校教育基本計画策定委員会の記録

1 日 時 平成30年 5 月31日(木) 10:30~12:00

2 会 場 県庁 10階 1002会議室

3 出席者 委員長、副委員長、委員7名

4 報 告

(1) 田川地区の県立高校再編整備計画について

(2) その他

5 協 議

(1) 庄内総合高校教育基本計画策定委員会の検討組織 (案)

(2) 庄内総合高校教育基本計画策定委員会の検討内容 (案)

(3) 庄内総合高校教育基本計画策定委員会の検討計画 (案)

6 主な意見等

(委員)

- 田川地区の高校再編計画案の中で、庄内中高一貫校の設置等についてはまだ決まっていないとのことだが、庄内総合高校の計画は、これとは別に進めるものと理解してよいか。

(事務局)

- 庄内総合高校への定時制・通信制の設置は県教育委員会で決定した事項であり、それ自体を進めていく。

(委員)

- 庄内総合高校が地元に残ることになって町民一同感謝している。ただし、定時制や通信制については、どのような生徒が来るのか、通学手段はどうするのかなどの疑問点が多く、町民に理解が深まっているとはいえない。県教委は町民に丁寧に説明して行ってほしい。

(事務局)

- 地域あつての学校なので、機会をとらえて説明していきたい。

(委員)

- 生徒を送り出す中学校側から申し上げると、生徒への進路指導は1年生の時から始まるので、新しい学校の教育内容等はぎりぎりになってからではなくて、先を見通して計画・公表してほしい。

(委員)

- 通信制の生徒には、不登校経験者や全日制からの転学者も多くいる。人と接するのが苦手な生徒も多いが、現在鶴南通信制と山添校のキャンパス制で行っている取組みのように、地域の中で活動したり、人との交流を図ったりすることが期待される。一方で、他の課程の生徒とできるだけ交わらないように校舎の独立性に配慮願いたい。

(委員)

- 定時制が鶴岡からなくなり庄内町にできるとすると、市内の生徒の通学や保護者の送迎が大変になる。交通手段の確保についても、関係機関と連携して対応できないか。また、生徒のことを考えると、可能であれば、定時制と全日制の校舎を分けた方がよいと思われる。一方で、様々な交流活動をする力が付くので、定時制と全日制生徒との交流の場面や、地域とのつながりの中での交流活動を計画してほしい。

(委員)

- 庄内総合高校は新しく生まれ変わることになるが、「地域に根差した学校」としては変わらないものとする。現在行っている庄内町との関わりは、新しく作られる課程にも取り入れていきたい。特別教室棟をどこに建て替えるか、定通の校舎を独立校舎にできるか、3課程の生徒の動線をどうするかなど解決すべき課題は多いが、県内初の先進的な学校をつくっていきたい。

(委員)

- 社会が人口減少に向かう中で、新しい学びの形や教育ニーズに対応した学校づくりをしてほしい。具体的には、一つ目は、地域の一員としての自覚を持ちながら、地域資源を活用してほしい。二つ目は、他校や他県の先進的な取組に積極的に学んでほしい。三つ目は、探究的な学びを取り入れ、特に通信制生徒に社会性を付ける工夫をしてほしい。四つ目は、リカレント教育の視点から、社会人等への学び直しの機会を提供できるようにしてほしい。

以上